

眞昼の夢の夜 寝覚め
Mirage and Insomnia
—The Imagination of Day-Night Reversal—
—昼夜逆転の想像力—

2015・5・16(土)ー6・28(日)

| 同時開催 | 受贈記念「魚住誠一写真展」

開館時間・9:30ー17:00(入館は閉館30分前まで) 休館日・月曜日
観覧料・一般700円(500円)、学生600円(400円)、高校生以下無料
()内は、20名以上の団体料金

- ・この料金で常設展示もご覧いただけます。
- ・学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
- ・障害者手帳等をお持ちの方及び付き添いの方1名は観覧無料。
- ・家庭の日(5月17日、6月21日)は、団体割引料金となります。
- ・交通：近鉄、JR津駅西口から徒歩約10分。ご来館には公共交通機関をご利用ください。

主催・三重県立美術館
助成・公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会

三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum

〒514-0007 三重県津市大谷町11

TEL・059-227-2100 FAX・059-223-0570

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

「夜が私たちに開いてくれた無限の眼こそ、
私たちには、あの大空にかがやく星にもまさって
貴く思われる。」
ノヴァーリス「夜の讃歌」

昼と夜が入れ替わる。あるいは、両者の区別
が曖昧になる。そのような状況に陥ったとき、私
たちの想像力は思いがけない飛躍を果たします。

ノヴァーリスの詩句に見る様に、夜の闇は多く
の詩人や文学者たちを魅了してきました。また、
受験勉強や原稿書きなど、真夜中のほうがよく
はかどつたという経験は、誰しもあるのではな
いでしょうか。そんな夜の闇に潜んだインスピ
レーションを呼び覚ます不思議な力は、美術家の
心をも捉えてきたはずです。

一方、美術作品に表現されたイメージのなか
には、白昼夢とも呼べるようなヴィジョンを見出
すことができます。本展では、そんな多くの作
品のなかから、「幻視」と「蜃気楼」という二つの
キーワードに沿って作品を選び、昼間に見る夢や
幻の形象について検討します。

昼に活動をして、夜には目を閉じ休息する。
そんな日常の循環から逸脱した際にふいに訪れ
るインスピレーションは、どのように美術作品と
関わっているのでしょうか。本展では、そうした
昼夜逆転の状況が生む想像力の不思議を、所蔵
作品を通してご紹介します。

展示構成(予定)

第1章・薄明の時間

第2章・夜の寝覚め(にぎやかな夜)・夜の彷徨(夜行性)(銀河)

第3章・真昼の夢(幻視)(蜃気楼)

(終わらない眠り)

夢の夜、夜の寝覚め
Mirage and Insomnia
—昼夜逆転の想像力—
—終わらない眠り—



エドヴァルド・ムンク《窓辺の少女》
(マイヤー・グラーフェ・ポートフォリオ社) 1894年



松本健介《駅の裏》1942年



古賀春江《煙火》1927年



北園克衛《夏の夜》(『詩集 夏の手紙』アオイ書房) 1937年



谷中安規《冥想氏》1933年



イケムラレイコ《夜の浜辺》2002-2003年

●会期中のイベント

ギャラリートーク

本展担当学芸員が、展示室内で作品や展示について解説します。
5月23日(土)、6月21日(日) いずれも14:00- ※参加には観覧券が必要です。
※その他イベントの開催については、ウェブページにてお知らせします。

●同時開催

受贈記念「魚住誠一写真展」

(企画展示室第4室)

同会期中、ブロムオイルという独特の印画技法を用いた松阪出身の写真家 魚住誠一(1894-1950)の作品を、県内では没後初めて本格的にご紹介します。《晩秋晩照》制作年不詳



●特集展示「島田鮎子展」(柳原記念館A室)

2015年4月4日(土) - 6月21日(日)

●次回の企画展「戦後70年記念 20世紀日本美術再見 1940年代」

2015年7月11日(土) - 9月27日(日)

●交通

近鉄/JR津駅西口から徒歩約10分、
または、津駅西口1番のりばより、
三重交通バス「西団地循環」、
「津西ハイタウン行き(東団地経由)」、
「夢が丘団地行き(総合文化センター前経由)」、
「総合文化センター行き」のいずれかに乗車2分、
「美術館前」下車徒歩1分
※できる限り公共交通機関をご利用ください。



三重県立美術館

Mie Prefectural Art Museum

〒514-0007 三重県津市大谷町11

TEL 059-227-2100 FAX 059-223-0570

http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/

@mie_kenbi

